

第 2 章 防災指針

1 防災上の課題

本市には、土砂災害や洪水による以下のような危険性が潜んでいます。本計画においては、このような危険性に対応し、市民が安心して暮らせる都市をつくっていく必要があります。

①土砂による災害の危険性

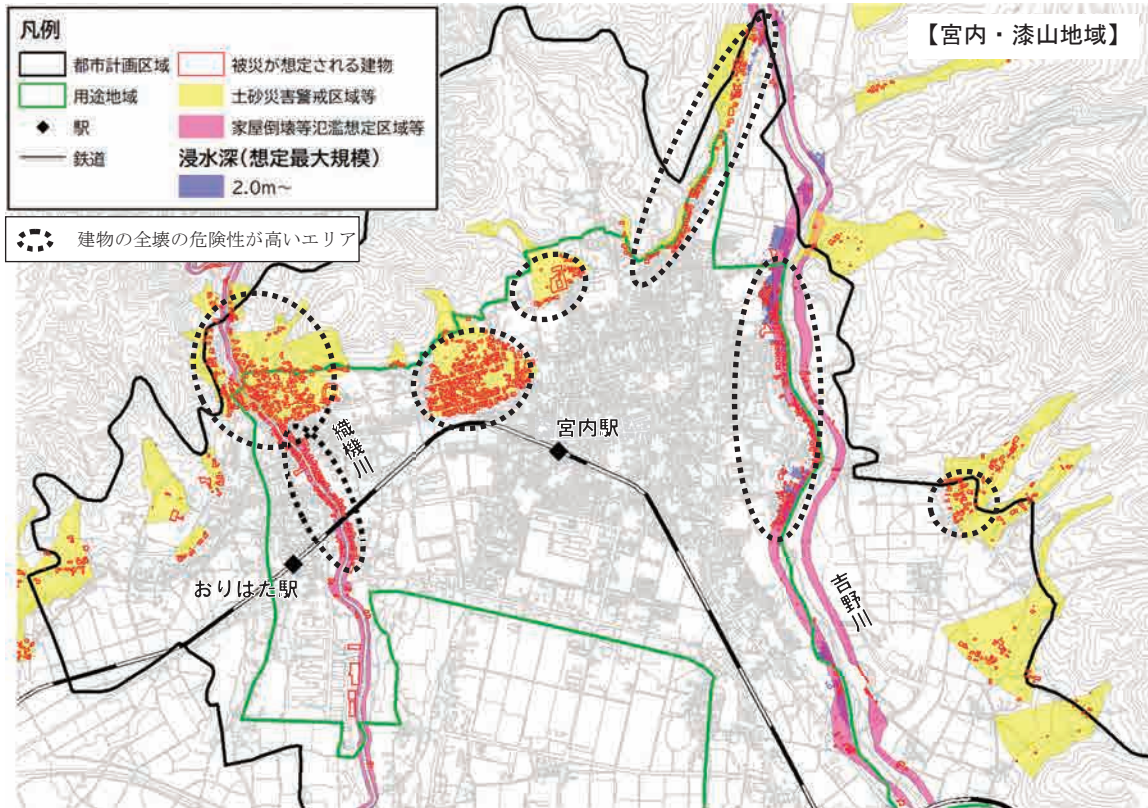
土砂災害警戒区域等においては、災害発生時に建物が全壊する程の被害が想定されます。具体的には、赤湯、宮内及び漆山の丘陵と隣接する市街地において建物全壊の危険性が高い状況にあります。こうした区域では、災害発生の防止や被害を軽減する等の対策を講じる必要があります。

②洪水による災害の危険性

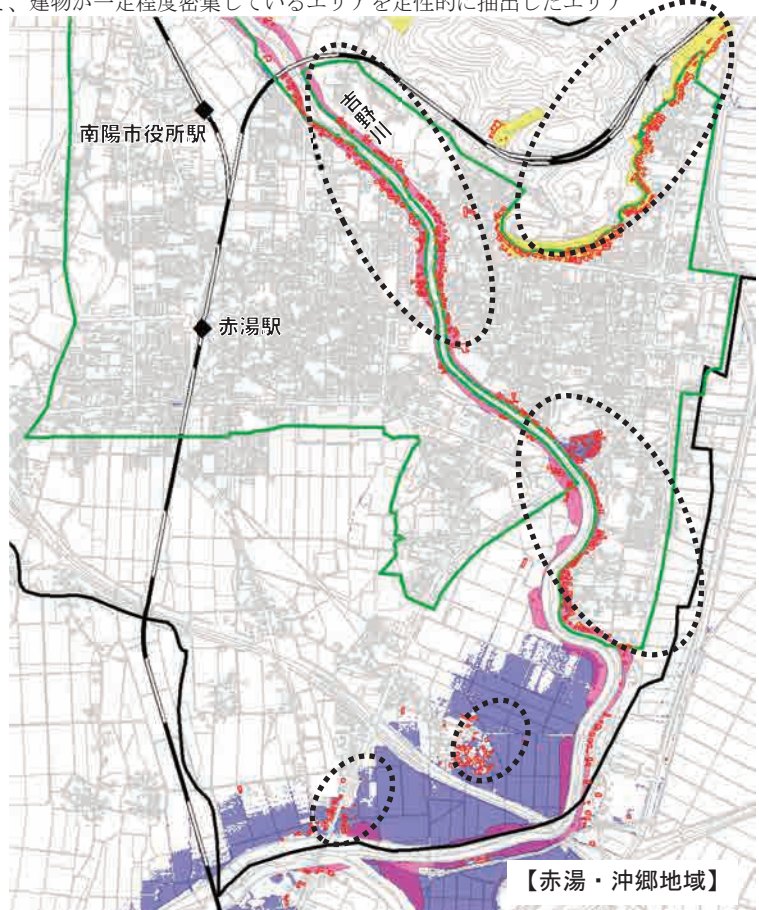
想定最大規模降雨における浸水深 2.0m以上の区域や、家屋倒壊等氾濫想定区域においては、災害発生時に建物が全壊する程の被害が想定されます。想定最大規模降雨のほか、計画規模降雨においても浸水する可能性のある区域は、頻繁な建物被害を受ける可能性があります。このように、建物被害が想定される区域では、居住の新規立地を抑制するとともに、安全な区域への居住の誘導を図る必要があります。

また、比較的浅い浸水でも、長時間にわたり継続することで、施設が機能停止に陥るおそれがあります。さらに、短時間の浸水でも、比較的深い浸水により施設が機能停止に陥るおそれがあります。このように、都市機能が停止する危険性が高い区域については、災害防止策を講じるほか、災害の危険性の低い区域への都市機能の移転や浸水被害の軽減に取り組む必要があります。

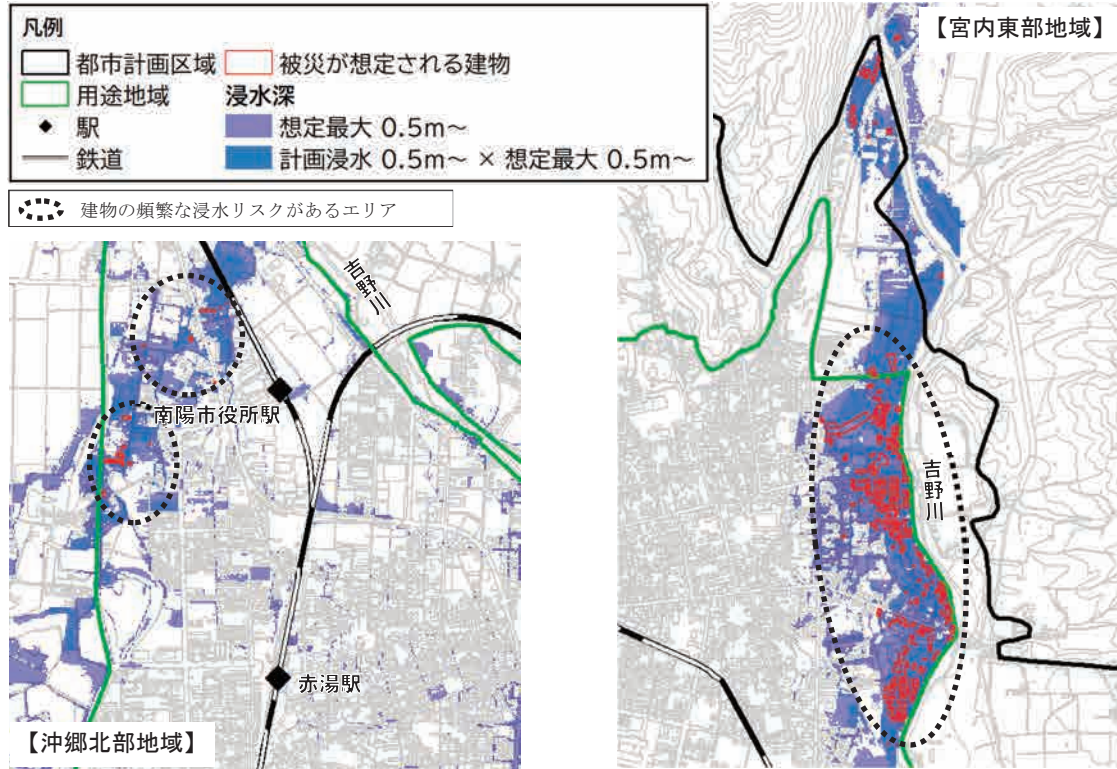
〈建物の全壊の危険性の高いエリア〉



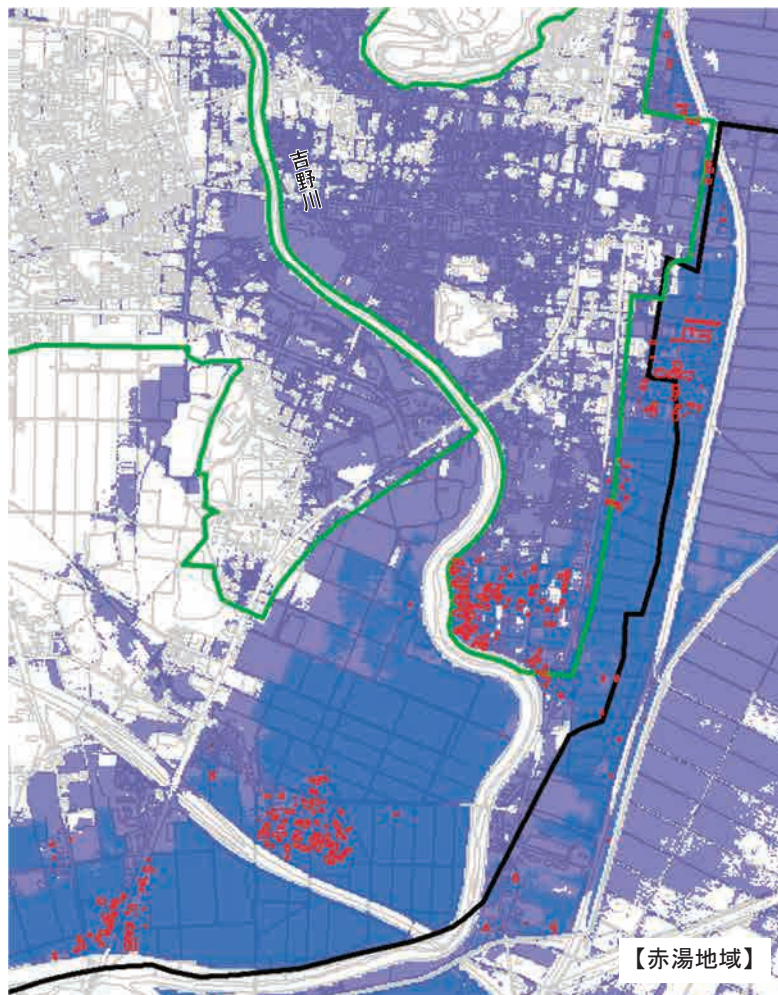
注) 建物の全壊の危険性の高いエリアは、土砂災害警戒区域等、家屋倒壊等氾濫想定区域等、想定最大降雨規模における浸水深2.0m~の区域内において、建物が一定程度密集しているエリアを定性的に抽出したエリア



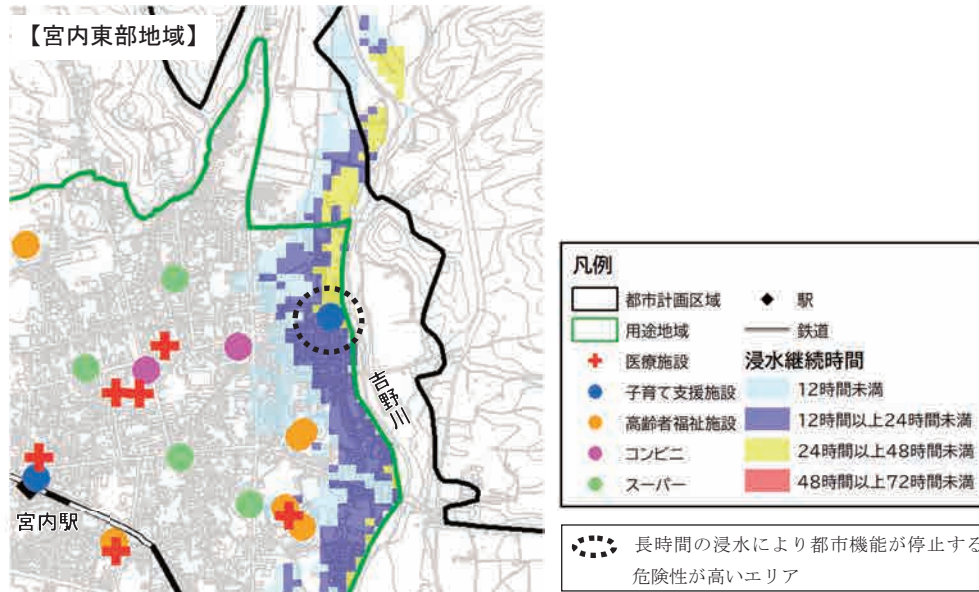
〈頻繁に浸水被害を受ける危険性の高いエリア〉



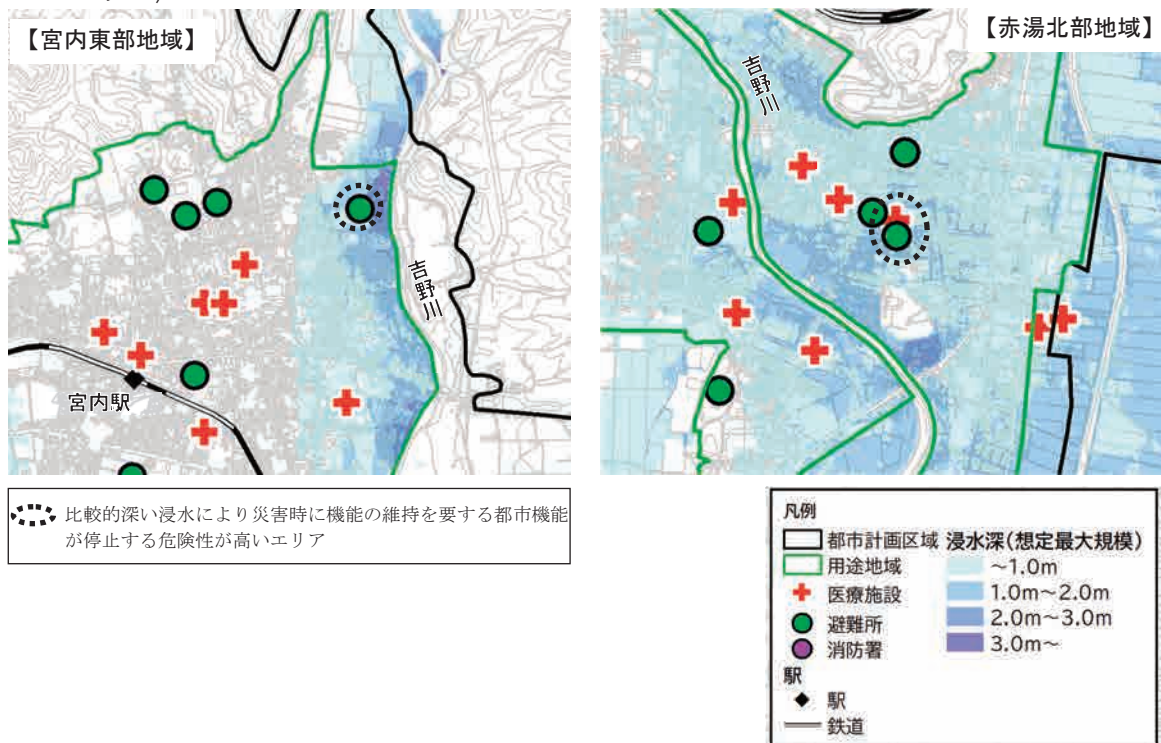
注) 建物の頻繁な浸水被害を受ける危険性が高いエリアは、想定最大降雨規模における浸水深 0.5 m~の区域と計画降雨規模 0.5 m~の双方の区域が重複する区域において、建物が一定程度密集しているエリアを定性的に抽出したエリア



〈長時間の浸水により都市機能が停止する危険性の高いエリア〉



〈比較的深い浸水により災害時に機能の維持を要する都市機能が停止する危険性の高いエリア〉



2 防災上の対応方針

土砂災害や洪水による危険性がある区域は、可能な限り災害の防止を図るとともに、災害の防止が困難な場合には、被害の軽減や回避に努めます。同時に、確実な人命保護に向け、災害時の危険情報の発信や避難環境の充実に努めます。

①災害の危険性への対応

市民の安全な暮らしを確保するため、防止可能な災害は土砂災害対策や河川改修等の防止策を講じていきます。一方、防止が困難な災害については、その被害を回避する対策を講じていきます。具体的には、土砂災害や洪水による建物の全壊の危険性があるエリア、建物の頻繁な浸水の危険性があるエリア、長時間間の浸水により都市機能停止の危険性があるエリアについては、居住誘導区域や都市機能誘導区域には設定せず、同時に移転策を講じることで、被害の回避に努めます。また、比較的大きな浸水により災害時に機能維持を要する都市機能が停止するおそれがあるエリアについては、施設内への浸水を防止する機能の強化や避難施設の配置検討に取り組みます。

②避難環境の充実

想定最大規模降雨のような大規模な災害においては、その被害を防ぎきることは困難です。こうした災害から人命を守るため、上述の対策と合わせて、避難環境を整えることが重要です。避難施設の配置見直し等により、より早く、安全に、確実に避難できる環境の充実に努めます。

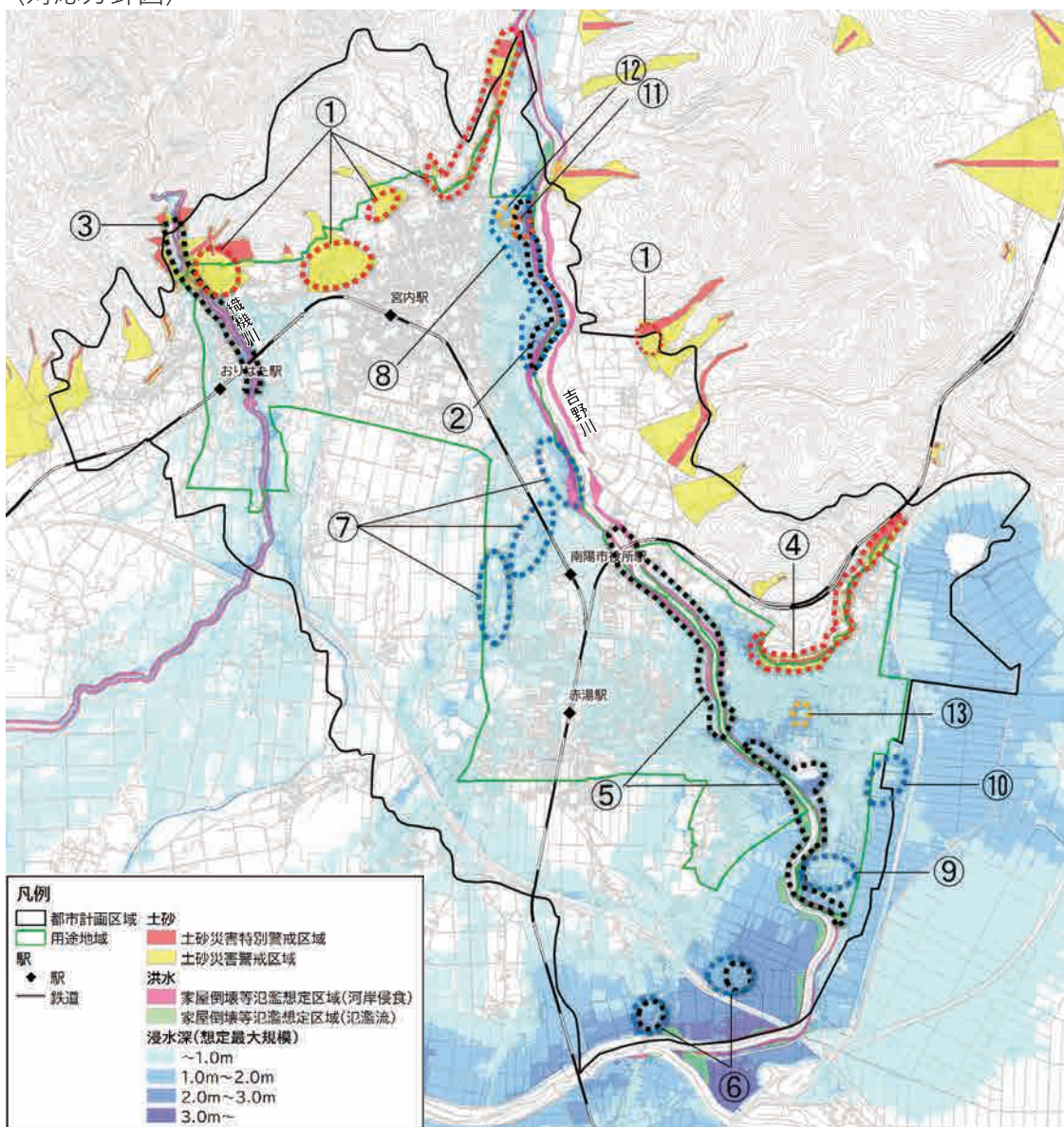
③災害情報の周知

市民が安全な暮らしを確保したり、早期の避難を可能とするためには、市民が災害情報を十分に把握しておくことが重要です。ハザードマップの周知徹底等を行い、市民一人ひとりが災害情報を把握・理解できるよう努めます。











〈地区別の対応方針表〉

地区番号	地区名	抽出された課題	対応方針の種別	対応方針
①	宮内・漆山市街地北部地区	家屋倒壊のリスクが高いエリアに建物が多く立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
②	宮内の吉野川周辺地区	家屋倒壊のリスクが高いエリアに建物が多く立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
③	織機川周辺地区	家屋倒壊のリスクが高いエリアに建物が多く立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
④	赤湯市街地北部地区	家屋倒壊のリスクが高いエリアに建物が多く立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑤	赤湯の吉野川周辺地区	家屋倒壊のリスクが高いエリアに建物が多く立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑥	赤湯地域南部地区	家屋倒壊のリスクが高いエリアに建物が多く立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
		頻繁に浸水するリスクが高いエリアに建物が立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑦	沖郷市街地北部地区	頻繁に浸水するリスクが高いエリアに建物が立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑧	宮内の吉野川周辺地区2	頻繁に浸水するリスクが高いエリアに建物が立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑨	赤湯市街地南部地区	頻繁に浸水するリスクが高いエリアに建物が立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑩	赤湯市街地東部地区	頻繁に浸水するリスクが高いエリアに建物が立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑪	宮内双葉保育園周辺地区	長時間浸水するリスクが高いエリアに都市機能が立地	回避	誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
⑫	宮内中学校周辺地区	比較的大きく浸水するリスクが高いエリアに災害時に機能の維持を要する都市機能が立地	低減	施設内への浸水を防止する機能の強化及び避難施設の配置検討を図る
⑬	赤湯市街地中心地区	比較的大きく浸水するリスクが高いエリアに災害時に機能の維持を要する都市機能が立地	低減	施設内への浸水を防止する機能の強化及び避難施設の配置検討を図る

〈対応方針図〉



資料：山形県土砂災害警戒システム（土砂）、山形県資料に基づく詳細データ（令和元年9月）（洪水）

防災上の危険性の高いエリア	対応方針
 土砂災害による建物の全壊の危険性があるエリア	 リスク回避 ：誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
 洪水による建物の全壊の危険性があるエリア	 リスク回避 ：誘導区域外とし、居住誘導区域内、都市機能誘導区域内への移転を図る
 建物の頻繁な浸水の危険性があるエリア	 リスク回避 ：誘導区域外とし、居住誘導区域内への移転を図る
 長時間の浸水により都市機能停止の危険性があるエリア	 リスク回避 ：誘導区域外とし、居住誘導区域内、都市機能誘導区域内への移転を図る
 比較的大きい浸水により災害時に機能維持を要する都市機能が停止するおそれがあるエリア	 リスク低減 ：施設内への浸水を防止する機能の強化及び避難施設の配置検討を図る

3 防災に係る施策

防災上の対応方針に基づき、本市における安全・安心な暮らしを実現するため、以下の施策の実施に向け取り組んでまいります。

	施策	実施主体	実施時期の目標		
			短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
① 災害の危険性への対応	吉野川の改修	県			
	池黒地区の急傾斜地崩壊対策	県			
	溢水の危険性の高い地区の重点的な公共下水道(雨水)の整備	市			
	災害の危険性の高い地区から居住誘導区域への移転等の補助	市			
	内水による浸水被害の軽減・回避	市			
② 避難環境の充実	浸水想定や土砂災害の危険性を踏まえた避難施設の配置検討	市			
	災害の危険性の高い地区からより安全な避難施設への避難路の確保	市			
③ 災害情報の周知	災害時の危険情報の早期発信	市			
	ハザードマップの周知による災害の危険性の認識の向上	市			